

1) ガバナンス部門(部門責任者)

辻 康夫 (教授・政治理論)

2022 年度の研究活動およびそのアウトプットについて。

私の研究テーマは多文化主義およびマイノリティをめぐる政治理論であり、当センターにおいては、多文化主義とガバナンスをめぐる研究に従事している。多文化主義はその単純な外見に反して、多様な政策課題に対応する複雑な構造を持ち、これに対応していくつかのアプローチにカテゴリー化することができる。私はこれを「文化アプローチ」「支配・抑圧アプローチ」「コミュニティ・再建アプローチ」として定式化し、それぞれの論理と相互の関係を検討してきた。2022 年度にセンター内においては、当センター主催の公開講演会「先住民族の権利に関する国連宣言」15 周年記念 公開講演会「国連宣言採択から 15 年一意義と課題」を実施した。国際人権法学の第一人者の知見をうかがう機会を得たことはきわめて有益であった。個人研究としては、前年度につづいて、マイノリティ言語をめぐる政策論争の構造の分析を進め、その成果を 2 本の論文において公刊した。書評論文を執筆した。

その他(教育活動ほか)

学部向けには、法学部専門科目「政治学」の講義を、公共政策大学院および研究大学院向けには、「公共哲学」および「政治学特別講義」を担当した。全学教育についてはオムニバスの総合講義「価値対立時代の対話学」のうちの 2 回分を担当した。

論文

論文標題	誌名	発行年	頁
権左武志教授の経歴と業績	北大法学論集 73(6)	2023 年	191-204
言語保全政策の手法と正当化 — カナダ・ケベック州と北米先住民の 実践例からの考察 — (1)	北大法学論集 73(5)	2023 年	23-49
マイノリティ言語の保全政策の規 範理論：言語の公共的機能からの 基礎づけ	北大法学論集 73(2)	2023 年	55-89
書評「南川文里著『未完の多文化 主義』(東京大学出版会、2021 年)」	移民研究年報 28	2022 年	118-119

学会発表

発表課題	学会等名	年月日	発表場所
多文化主義とデモクラシー	明治学院大学公開セミナー	2022 年 11 月 8 日	明治学院大 学
遺骨返還問題の規範的考察：多 文化主義の政治理論の視点から	日本文化人類学会	2022 年 6 月 4 日	明治大学